

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300511		
法人名	社会法人 山口向陽会		
事業所名	日吉台グループホーム		
所在地	山口県山口市 陶 973		
自己評価作成日	平成26年11月5日	評価結果市町受理日	平成27年6月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いに寄り添い、安心して過ごしやすい環境作りに努めている。自分でできることは自分でして頂き、利用者一人ひとりにとって、より良いケアができるように心かけている。職員が統一したケアができるように、随時改善策を考えながら対応している。当施設は、複合施設であり他事業所の利用者との交流の機会もある。職員の知識と技術の習得にも力を入れており、法人内外の研修の参加や介護福祉士・介護支援専門員の資格取得のため外部から講師を招いて業務外の勉強も取り組んでいる。

前回の評価結果を受けて目標達成計画を立てられ、消防署の協力を得て、年1回の救急救命法を受講されている他、法人看護師の指導による心肺停止の訓練を実施されたり、内部研修で、転倒や窒息、呼吸確認の訓練を実施されているなど、急変や事故発生時の対応について改善に取り組んでおられます。運営推進会議時や面会時の懇談、年3回の家族会等の機会をとらえ、家族から意見や要望を聞いておられ、家族からの医療面の不安について答えて欲しいという要望について、法人の看護師が同席して説明され、共通理解につなげられるなど、意見を反映させるように取り組んでおられます。外部研修は職員の希望や段階に応じて受講の機会を提供され、職員は復命報告をされて全職員で共有しておられ、職員のスキルアップに取り組まれると共に、サービスの向上につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域の中で、安心して生活できる暮らしの提供をします」と理念をホーム内に掲示して、全職員が業務会議で確認して共有し、理念の実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の業務会議や介護計画作成時、日常業務の中で確認し、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している施設の利用者と行事や、日々の散歩等にて交流がある。地域の祭りに出かけたり、地域のボランティアサークルの来訪や幼稚園・小学校・中学校との交流会に参加している。また自治会にも加入していて、職員が地域の清掃活動に参加している。	自治会に加入し、職員は清掃活動に参加している。地域のふれあい祭りに利用者と職員が一緒に出かけて地域の人と交流している。歌や踊り、大正琴のボランティアの来訪がある。幼稚園児や小学生、中学生との交流を楽しんでいる他、法人の盆踊りや秋祭りに地域の人への参加があり、利用者も参加し交流している。併設施設と一緒に運動会をしている他、毎週、喫茶会を開き交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の研修会等に参加し、業務会議で再度全職員で考え、地域の人や家族からの相談等に対応している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に評価の意義を説明し、一人ひとりが自己評価を行った後、業務会議にて話し合いをしている。外部評価後は評価内容を、全職員に伝達し、改善に取り組んでいる。	評価の意義を説明し、全職員が評価をするための書類に記入し、業務会議で話し合いまとめている。職員は担当制業務についての振り返りをしている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を作成し、緊急時の対応について、年1回、消防署の協力を得て救急救命法を受けている他、併設施設の看護師の指導を受けて心肺蘇生法を学び、転倒、窒息、呼吸確認等の訓練をしているなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回業務会議にて、議題を決めその内容を運営推進会議にて話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、活動報告、研修報告、食事についてや口腔ケア、利用料金の説明、外部評価結果、災害対策についての報告をし、話し合っている。メンバーから地域行事の紹介があり、利用者と一緒に出かけている他、家族からは外出行事の参加や協力が得られることになるなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町担当者とお会いする機会がある際には、事情やケアサービスの取り組みを伝えている。	市の担当課とは、介護保険の更新申請などで出向いたり、介護保険についての不明な点等を電話やファクスで相談し助言を得たり、情報交換をするなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは運営推進会議時などで情報交換をするなど連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修で「身体拘束について」学び、全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関等の施錠はしておらず、外に出たい利用者は随時付き添い散歩に行く等、本人の意向に沿ったケアをしている。	年1回の法人研修で学び、全職員は理解して拘束や抑制をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外出したい利用者とは一緒に出かけたり、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては、職員間で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にて、外部講師による講義が開催されたので参加して理解を深めて、事業所内にて虐待の防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状としては、学ぶ機会が少なく、職員それぞれが学ぶ場に参加していく必要がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて、入居前の説明を行い、設備面でも見学して頂いて納得して頂いている。改定時には、文書と口頭でお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在苦情はなく、相談を受けた際には全職員に伝達し、ホーム内での解決ができない場合には外部へ表せる機会を設けている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。運営推進会議時や面会時、家族会(年3回)、電話などで家族の意見や要望を聞いている。ケアに関する要望等は反映させている。医療面についての不安に答えて欲しいという家族の要望から、併設施設の看護師が同席して職員が説明しているなど、反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に、職員の意見や提案を聞くことのできる環境となっており、職員それぞれが毎月の行事等取り組みたい事柄を立案する等している。	月1回の業務会議や申し送り時に職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。職員からは浴室の手すりの改修や壁の全面改修の他、外出行事の企画に対して、職員体制を変更して人数を増やすなどの提案があり、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の勤務状況を把握し、委員会等役割を持ち、働きやすい職場環境となっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の教育研修委員会にて、年間の研修計画を作成しており、研修会に参加している。法人外の研修の情報を収集し、参加できる時には参加している。また介護福祉士や介護支援専門員等資格取得のために、法人内外の勉強会に参加できる環境を作っている。	外部研修は職員に情報を伝え、段階に応じ勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をし、資料は閲覧できるようにしている。希望の場合は勤務調整をして参加の機会を提供し、復命報告をし共有している。年8回の法人研修に職員は参加し、高齢者虐待、倫理、栄養管理、接遇コミュニケーション、感染症、防災について学んでいる。内部研修は、ユマニチュード、認知症、事故、ヒヤリハットの記録方法、緊急時対応等について実施している。新任研修は、先輩職員の指導を受けて働きながら学べる様に支援している。資格取得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や講演会等に参加して同業者との交流会の機会を得て、他事業所の良い取り組みを他職員にも伝え、取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、話し合いをして、思いをくみ取り、職員との思いにすれ違いないように信頼関係を築き、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、家族も不安や不明な点があると考えられるため、サービスの内容を細かく説明し、ホーム内の見学や何度かの話し合いを行い、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者にとって、良いケアとは何かを考え、本人や家族との話し合いを行い、本人の状況を考えて必要な支援を見極めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は手を出し過ぎることなく、本人ができることは見守り、本人一人でするには困難な点を一緒に行っている。利用者それぞれの得意分野(囲碁を教えたり、植物の世話の仕方等)を職員に伝授して頂くことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が共に思いを共有しながら、本人の望む生活ができるような、支えあう関係づくりに努めている。面会時には、本人の近況や思いを伝え、今後のケアについて等話をしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敷地内から入居されている方が多く、散歩や行事参加等で交流がある。馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や親戚の人、知人の来訪がある他、年賀状や手紙、電話、出張美容室の利用の支援をしている。家族の協力を得ての自宅訪問や外泊、外食、買い物、法事への出席、行きつけの美容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握して、気の合う方の席を近くに設けるなど、話せるきっかけや雰囲気づくりをしたり、トラブル等がないように支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は、併設の施設を利用される方が多く、声をかけたり、家族から相談があった時は、その都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や行動を介護記録等に記録して、全職員で本人の言動を良く観察しながら、思いや意向の把握に努めて、本人本位の生活ができるように検討している。	入居時に家族からの情報を得て問診表に記録し、把握している。日常の関わりの中での本人の言葉や行動を介護記録に記録した後に、申し送り時に話し合っ共有し、センター方式のシートにまとめ一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から情報を得ることが難しい点は、前サービスの事業所から情報収集したり、家族の面会時に話を伺い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝健康チェックを行い、体調の変化に気付くようにしている。また、その方にとって難しくなっている行動はないか様子を見て、本人が過ごし易いように支援の方法を検討している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを尊重し、ケアカンファレンスや業務会議で職員がそれぞれ意見を出し合い、アイデアを反映して現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者や利用者を担当する職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の要望、主治医、法人看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎の見直しをしている。状態や要望の変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やモニタリング表の記録をする時は、本人の言動だけでなく、その後の対応についても詳しく記録することで、職員間で情報を共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。また家族への状況説明も正しく伝えることができる。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズが生まれた時には、直ぐに職員間で検討したり、運営推進会議にて家族や地域の方と話し合い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市報や地域の広報誌・地域の方などから情報を得て、利用者の暮らしの中で必要といえる地域資源をその時々で活用し、支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望される医療機関で受診できるように支援している。利用者の健康チェック状況や内服状況等について、全職員が把握して伝達できるようにしている。協力医療機関や専門医と連携して必要に応じて往診や緊急時の連携体制を取り、適切な医療を受けられるように支援している。受診時に、日頃の利用者の状況が分かるように情報ノートを作成して本人の状況を記入し、家族とも話しをしている。	本人や家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、必要に応じて往診がある。以前からのかかりつけ医への受診や他科受診は、家族の協力を得て支援をしている。受診時には本人の状態を記録した「情報ノート」を提供している他、家族から受診結果を聞いて「情報ノート」に記録し、職員間で共有している。緊急時には法人の看護師と連携して適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師が午前と午後利用者の健康チェックの訪問時に、その日の利用者の健康状態を伝えている。緊急時には夜間も含めて直ぐ報告をして、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況を病院関係者・家族とも情報交換や相談に努めて、退院時の受け入れの調整を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所でできることについて、家族に説明している。実際に重度化した場合には、主治医の意見をもとに、家族・職員等の関係者が話し合い、法人の他施設への移設も含めて支援している。	事業所で出来る対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、主治医や法人の看護師など、関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を共有して、取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	業務会議の中で、職員がテーマを決めて事例を取り上げ、全職員で検討し訓練を行っている。事故が発生した場合は、カンファレンスを行い再発防止に努めている。	事例が生じた場合は、その日の職員間で対応策について話し合い、「事故及びヒヤリハット報告書」に記録して、申し送り時に職員間で共有している。月1回のカンファレンス時に再検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。年1回消防署の協力を得て救急救命法を受講している他、年1回法人看護師による心肺停止の訓練を実施している。外部研修で緊急時の対応について受講した職員が復命報告をしている。内部研修として転倒、窒息、呼吸確認などの訓練を実施している。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策委員会を設置して、月に1回は法人内の事業所の委員が集まり、災害対策について話し合っている。また利用者参加型の防災避難訓練を年2回実施している。災害時は地域の方の応援を受ける体制が整っている。	年2回消防署の協力を得て、法人全体で夜間想定火災時の避難訓練を実施し、利用者や職員が参加している。法人の防災対策委員会に参加し、災害対策について毎月話し合っている。事業所独自で年2回、利用者と一緒に夜間想定通報訓練、消火訓練、避難経路の確認をしている。事業所の緊急時の連絡網に地域の人2名の加入があり、避難誘導などの協力が得られるなど、協力体制を築いている。法人全体で備蓄品の整備をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩という意識をもって丁寧な言葉かけや接し方に配慮している。気分の変動のある方には、時間をおいて対応するようにして、関わる場面でその方の人格を考慮しながら接している。	職員は法人の接遇研修で学び、利用者を人生の先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報等の書類は保管し、守秘義務についても話し合っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を上手く表出できない方には、利用者の行動や表情をよみとり、本人の思いや希望を表せるような働きかけをしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での活動の参加の時間を大切にしているものの、一人の時間も大切に過ごせるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝更衣時には、一日の始まりとして整髪や身だしなみを整えて頂いており、男性は髭剃りをきちんとされている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房からの配食を利用しているが、厨房まで職員と一緒に食事用ワゴンを取りに行ったり、台拭きや配膳・下膳等の声かけをしている。声をかけても嫌がられる方がいらっしゃるため、様子を見て準備をして頂いている。毎月選択食の日やパンの日があり、希望の物を自分で選んで食べることができ、食事を楽しみにしておられる。	三食とも法人の厨房からの配食を利用し、利用者の状態に合わせて形状を変えている。プランターで育てた水菜や人参、ラデッシュなどを使って一品をつくることもある。利用者は台拭き、盛り付け、配膳、下膳などできることを職員と一緒にしている。利用者は職員と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら、同じものを食べている。事業所としての年1回の外食や買い物後に喫茶店でお茶などを楽しんでいる他、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理のため、医師からの指示や本人の希望のため食事の量を調整している。献立は管理栄養士で作成されておりバランスの良い物になっている。水分は1日に4回お茶の時間を設けて、しっかり水分補給ができるようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しを行っている。口腔ケアの方法が理解できない方には、職員が付き添い一つ一つ順序を説明して口腔ケアをして頂いて、清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレの声かけや誘導だけでなく、本人の言動をみてトイレ誘導を行っている。本人の負担にならないように業務会議でその方に合った排泄の支援のしかたを検討している。	排泄チェック表を活用し、パターンや習慣を把握して、声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防解消となる、飲食物の摂取の促しや毎日の体操や運動を行っている。一人ひとりの排便パターンを把握して、毎日排便の有無の確認をして、長く排便がない時は看護師に報告をして緩下剤や坐薬等の使用の検討をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望時に入浴をして頂いている。歩行が不安定な方には、リフト浴でも入浴できるように希望に沿った支援をしている。入浴をしたくない方には、タイミングを図るなど、声かけの工夫をしたり、状態に合わせた対応や環境づくりに配慮している。	毎日14時以降、本人の希望にそっていつでも入浴できる。リフト浴、一般浴などその日の希望に添って支援している。入浴したくない人には時間を見計ったり、声かけの工夫をしている。その日の体調に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、部分浴などの支援をしている。家族からの差し入れの柚子で入浴を楽しむなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不安な思いをされ入眠できない方には、入眠されるまで付き添っている。日中は本人の負担がないように居室で休息できるように状況に応じた支援をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表があり理解している。薬の変更があった時には、伝達ノートにて全職員が把握できるようになっている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植物が好きな方にはその世話をしたり、余暇時間には編み物や裁縫をされたり、囲碁や散歩を職員と一緒に楽しまれており、気分転換等の支援はできている。	テレビ視聴、新聞や市広報、雑誌を読む、日記をつける、編み物、囲碁、カレンダーづくり、苗植え、ぬり絵、諺遊び、オセロ、俳句、習字、ラジオ体操、手足体操、口腔体操、花壇づくり、幼稚園児や小学生、中学生との交流、西瓜割り、洗濯物たたみ、台拭き、配膳、下膳、季節の行事(節分、雛祭り、七夕、クリスマス会、餅つきなど)、誕生日会など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日散歩の声かけを行い、施設内外の散歩を楽しんで頂いている。花見や紅葉の季節には家族をお誘いし、タクシーに乗りドライブに出かけている。地域の祭りに参加したり、買い物・外食も利用者の希望を聞き外出して喜ばれている。	散歩、ショッピング、法人行事(秋祭り、園児、小学生、中学生との交流、敬老会式典など)、ボランティア(大型絵本の読み聞かせ、大正琴、方言クイズ)、地域のふれあいまつり、花見(桜、芝桜、コスモス、紅葉狩り)、初詣に出かけている他、家族の協力を得ての外食、買い物、自宅訪問、外泊、法事への出席、行きつけの美容院の利用など、戸外に出かけられるよう努めている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内でのお金の管理は職員が行っている。併設施設の売店にてお菓子等の購入が可能であり、御通帳にて購入されている。ショッピングでは、支払いが可能なお方には、支払いをして貰い買い物を楽しんで頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にはホーム内の電話機からかけられるように支援しており、ダイヤルは職員が介助している。年末には、利用者が家族宛に写真つきの年賀状を作成して送っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は天井や大窓から光が入り明るく、バリアフリーで段差はなく広々している。利用者の動線は動き易いような配置にしている。床暖房があり温度・湿度・換気に配慮して、快適で清潔な空間を心がけている。壁面には行事の写真や飾り、季節の飾りつけや季節の花がある。またホームの横のホールでは喫茶会を開いたり、気候の良い時には食事をウッドデッキで摂ったり居心地良く過ごして頂けるように配慮している。	リビングは天窓や掃き出し窓から入る陽ざしで明るく、温もりを感じることができる。花を飾り、食卓テーブル、テレビ、ラジオ、ゆっくりとくつろげるソファを配置し、利用者の居場所となっている。壁面にはクリスマスリースなどの季節の飾りや行事の写真や飾りをつけている。温度や湿度、換気に配慮し、清潔な中で居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室で皆さんと体操をされたり、気の合った利用者同士で会話をされている。ソファや椅子を数ヶ所配置して、好きな場所で過ごして頂けるようにしている。サンルームや天窓の下のソファでひなたぼっこをして過ごされる方もいらっしゃる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前の使い慣れた物を使用されている。好みや必要なものについては、家族に相談して持ってきて頂き、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビ、時計、壁掛け、椅子、置き物、絵、ぬいぐるみ、雑誌、本、日記など使い慣れた物を持ち込み、家族の写真、カレンダーなどを飾って居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物たたみ・花の世話等、自らされることを安全にできるように配慮している。室内では「トイレ」「電気のスイッチ」「呼び出しベル」等、解り易いように表示してある部屋もあり、自立した生活が送れるように工夫してある。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 日吉台グループホーム

作成日: 平成 27年 6月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・筋力の低下等により、ふらつきや転倒の危険のある利用者が増えている。	・一人ひとりの状態に応じた支援をして、事故防止に努める。	・一人ひとりのADLを全職員が把握し、利用者の思いを尊重しながら支援する。事例が生じた場合は、職員間で話し合い「事故及びヒヤリハット報告書」に記録して情報を共有し、月1回のカンファレンス時に再検討する事で事故防止に取り組む。	1年
2	35	・併設の特養に看護師がいるものの、夜間等職員が一人で業務に当たっている際、緊急時の初期対応が実践や知識不足から困難になることもある。また、多様なケースが生じるので、それに対応できるスキルを身につけるべきである。	・緊急時に、職員一人でも応急手当や初期対応ができる。	・業務会議にて2ヶ月に1回行っている緊急時対応についての訓練を継続する。様々なテーマを決め、色々なケースにも対応できるようにシュミレーションする事で全職員がスキルアップする。	1年
3	49	・利用者一人ひとりが望む支援ができていない面がある。利用者への関わり方を考え、見直す必要がある。	・利用者一人ひとりが役割を持ち、充実した生活ができる。	・集団活動とは別に、一人ひとりの思いや興味のあることに対して、したいこと・出来ることを検討して個別活動を増やしていく。食事準備や花がお好きな方にはプランターの水やりを手伝っていただく等の活動を通じて役割を持ってもらうよう取り組む。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。